

古代年表

時代	西暦	年号	陸奥国関係古史	日本の主な出来事
飛鳥時代	630	舒明 2		第1回遣唐使派遣
	637			上毛野君形名を將軍に任じ、蝦夷を討つ
	645	大化 1		乙巳の変(大化改新)が始まる
	647	3	淨定柵(新潟県)を造る	
	648	4	磐舟柵(新潟県)を造る	
	649	5		全国で評が建てられる
	652	白雉 3		難波長柄豊碓宮が完成
	653	4	石城評が建てられる	遣唐使派遣、道昭入唐
			※この頃までに道奥国が建国される	
	655			7月 難波宮で越・陸奥の蝦夷を賈す
	658	~60		阿倍比羅夫、日本海沿岸を北上する大航海を行う
	659	3月	道奥・越の国司・郡領に位を授ける	3月 甘樫丘東の川原に須彌山を造り、陸奥と越の蝦夷を賈す
	660	7月	遣唐使が陸奥の蝦夷男女2人を同道する	
	663		※この頃、鏡国(くにまぎ)のため陸奥国石城船造に大船を作らせる	5月 石上池のほとりに須彌山を造り賈賈を賈す 白村江の戦い
	672	3月	陸奥国の蝦夷に位を授ける	壬申の乱 天武天皇、新城に行幸 宮室の地を定める
684			3月 諸国の家ごとに仏舎を造らせる	
685			9月 天武天皇崩御	
686	朱鳥 1		12月 飛鳥寺西欄下に蝦夷男女213人を賈し、冠位を授け、物を賜う	
689	1月	陸奥国優曇曇郡の城養蝦夷らに出家を許す		
690	7月	陸奥の蝦夷の僧に仏像・鐘・香炉・幡等を与える		
694			1月 持統天皇即位	
697			12月 藤原京に都を遷す	
698	10月	陸奥の蝦夷が藤原京に朝貢する		
701	大宝 1	3月	8月 大宝律令完成する	
702	2	凡海龜を陸奥に派遣し、金を精鍊させる	6月 遣唐使粟田真人ら出発	
704	4		4月 諸国の印を鑄る	
705	慶雲 1		7月 粟田真人帰朝	
707	2	※日本文徳天皇実録によればこの年に陸奥国蝦夷が反乱を起こす		
708	和銅 1			
709	2	3月	3月 越後の蝦夷討に際し、陸奥国にも鎮東將軍を派遣する	
710	和銅 3		3月 平城京に都を遷す	
712	5	9月	9月 出羽国を置く	
713	6	12月	10月 陸奥国管内の最上・置賜二郡を出羽国に移すことを命ず	
715	8	1月	陸奥国に丹取郡を建てて	
		8月	元日朝賀において陸奥・出羽の蝦夷等が特産物を進上する	
雲龍 1	10月	5月	相模・上総・常陸・上野・武蔵・下野の富民1,000戸を陸奥国に配す	
716	2	9月	陸奥国香河村・間村に郡家を建てて	
717	3		陸奥国管内の最上・置賜二郡を出羽国に移す	
718	養老 2	5月	里制を改め、郷里制とする	
720	4	9月	陸奥国から石城・石背の二国を分置する	
721	5	8月	陸奥国の蝦夷反乱し、按察使上毛野廣人を殺す。持節征夷將軍多治比羅守らを派遣する	
722	6	10月	出羽国が陸奥按察使の管轄下とされる	
724	神龜 1	3月	柴田郡の二郷をさき刈田郡を置く	
		8月	諸国より柵戸1,000人を陸奥鎮所に配する	
		3月	陸奥国の海道蝦夷反し、大掾佐伯屋麻呂を殺す	
		4月	海道蝦夷を征するため、持節大將軍藤原原守らを派遣する	
			※多賀城碑によればこの年に多賀城を置く	
728	5	4月	新たに白河軍団を置き、丹取軍団を改めて玉作軍団となす	
730	天平 2	1月	陸奥国の田原村に郡家を建てて(遠田郡の設置)	
733	5	12月	出羽柵を庄内地方から秋田村高清水岡に移す	
737	9	1~4月	多賀城から出羽柵への直路開通事業(雄勝村の手前で中止)	
741	13		2月 園分寺創建の詔	
749	天平勝宝1	1月	陸奥国小田郡より初めて黄金を賈す	
760	天平宝字4	1月	雄勝城、桃生柵の造営が終る	
762	天平宝字6	12月	多賀城の改修工事完了し、多賀城碑が建てられる	
767	神護景雲1	10月	伊治城の造営終る	
		10月	陸奥国に栗原郡を置く	
774	宝龜 5	7月	陸奥国の海道蝦夷、桃生城を侵し、その西郭を敗る	
		3月	伊治皆麻呂・按察使紀広純らを殺し多賀城を襲撃	
784	延暦 3		11月 長岡京に都を遷す	
794	延暦 13		10月 平安京に都を遷す	
802	21	1月	胆沢城が造営される	

郡山Ⅰ期官衙

郡山Ⅱ期官衙

奈良時代

郡山遺跡の整備

これまで説明板や史跡標識、遺構復元スペース(郡山中ピロティ)などの整備を行ってきました。本格的な整備の着手に向けて、令和7年度に『史跡仙台郡山官衙遺跡群整備基本計画』を策定しました。今後は計画に基づいて、現地で郡山遺跡を体感して頂けるよう、石組池の復元や建物跡をはじめとした遺構の表示、ガイダンス施設の設置などの整備に順次着手していきます。



整備のイメージ図

遺構復元スペース (郡山中学校ピロティ)

郡山中学校の校舎内には、校舎建築時の発掘調査で見つかった建物跡の一部再現したり、解説パネルにより遺跡を紹介する施設があります。

事前申込・当日文化財課職員との同伴により、どなたでも見学いただけます。ご希望の方は文化財課までお問合せ下さい。

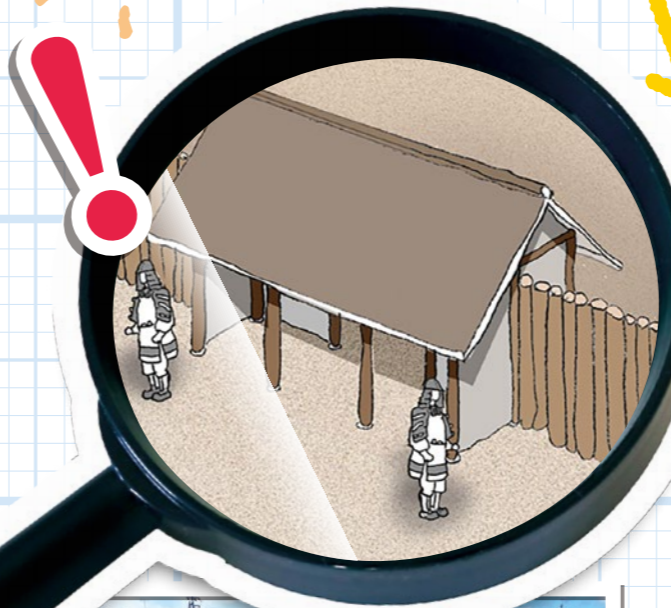


郡山中学校ピロティ内の展示のようす

仙台市文化財パンフレット
第86集

歩いて見つける! 郡山遺跡

こおり やま い せき
~むかしの役所を探検しよう!~



発行: 仙台市教育委員会文化財課 仙台市青葉区上杉1-5-12 上杉分庁舎10階

電話番号: 022-214-8893 メール: kyo019320@city.sendai.jp

★公式X「文化財課 広報」はこちら!

★郡山遺跡ホームページはこちら!



文化財に関する
最新情報発信中!!
ぜひご登録を♪



郡山遺跡の情報を
ひととめに掲載!
ぜひご覧ください♪



この広報誌は雑紙としてリサイクルできます

仙台市教育委員会

令和8年 3月 発行

郡山遺跡ってどんな遺跡…？

郡山遺跡とは

昭和 54 年(1979)に初めての発掘調査を行って以来、継続的に行った発掘調査によって、今からおよそ 1,350 年前の郡山に、これまで全く記録に残されなかった官衙(役所)や寺院があったことが明らかになりました。

平成 18 年(2006)にその一部は「せんだいでおりやまいせきぐん こおりやまかんが いせきぐん こおりやまはいし あと仙台郡山遺跡群 郡山官衙遺跡群 郡山廃寺跡」として国史跡に指定されました。

この郡山遺跡は、**日本でも最も古い時期の官衙(役所)として重要な遺跡なのです！**

I期官衙～最初につくられた役所～

いまからおよそ 1,350 年前、朝廷はこの地に軍事拠点として、周りを柵で囲い、中には倉庫や鍛冶工房などをと
もなう官衙をつくりました、これをI期官衙と呼んでいます。広瀬川と名取川に囲まれ、川や海などの交通に適した
場所としてこの地が選ばれたのかもしれませんが。建物の向きが海側を向いていることも一つの特徴です。

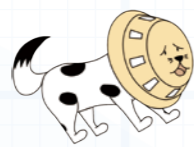


郡山の地(北西から:平成19年撮影)

官衙ってなに…？

朝廷の人たちが各地を治める拠点となった場所、今という役所のことです。

郡山遺跡では、様々な特徴をもった土器が見つかりました。このことから、官衙を営むため、地元の人だけでなく朝廷の役人や関東から移り住んだ人たちがいたことがわかります。



昔は字が書ける人は限られていたから、特別な道具なのさ！
ほくの顔も特別なのだ★



関東系土師器

在地区土師器

文字を書くための道具も発見！



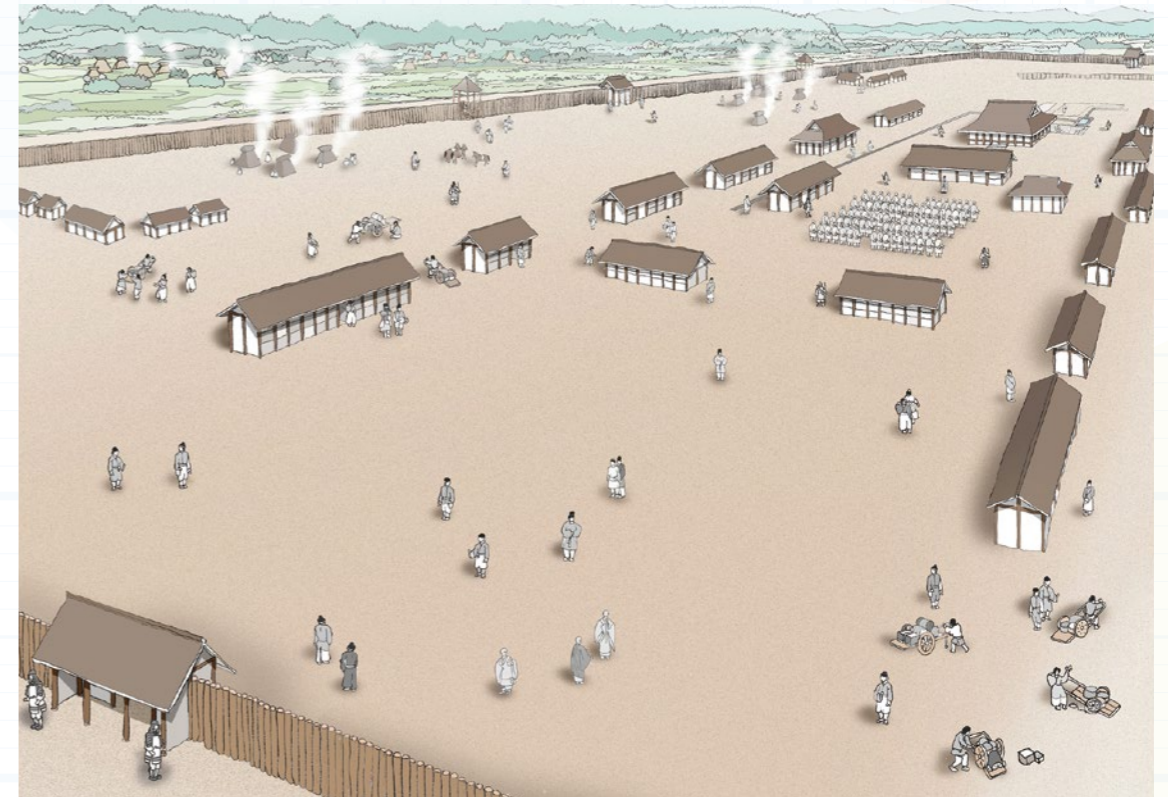
刀子

木簡

II期官衙～建て替え後の国を治める役所～

I期官衙ができてから 50 年くらいたった頃、I期官衙を取り壊して建て替えが行われます。II期官衙は、I期官衙とは建物の配置が異なり、当時の都と同じく北を基準につくられました。また、官衙の南側には寺院も建てられています。

郡山II期官衙は、むつづくに陸奥国の国府が多賀城にできる前の100年くらいの期間、政治・軍事・信仰の中心地であったと考えられています。



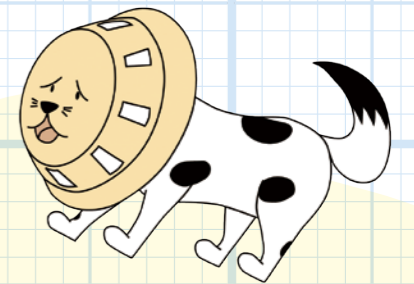
II期官衙イメージ図

陸奥国って どのあたり？

郡山に官衙があった頃は、宮城県、福島県、山形県の一部あたりをまとめて「陸奥国」と呼んでいたようです。



II期官衙は、
一辺が533mもの外構で
四方を囲っていたんだ！
官衙ってとっても広いんだね



実際に 郡山遺跡を歩いてみよう！

郡山遺跡は住宅地の中にある遺跡です。
散策するときは、遺跡を大事にしながら交通ルールやマナーを守って楽しく歩きましょう！

郡山遺跡散策マップへGO!

郡山遺跡散策マップ

郡山遺跡には遺跡説明板が**12箇所**設置されているよ。
すべて回って隠された**キーワード**を完成させよう！

キーワードを完成させよう！

※A～Fのくわしい内容は次のページへ…！

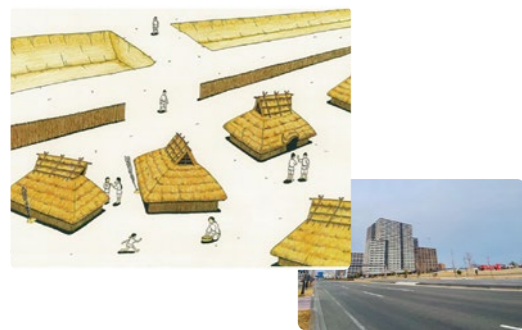
- ①
- ②
- ③
- ④
- ⑤
- ⑥
- ⑦
- ⑧
- ⑨
- ⑩
- ⑪
- ⑫

A I期官衙施設

I期官衙の中では、鍛冶工房や倉庫なども見つかったんだって！

B 集落

となりの西台畑遺跡や長町駅東遺跡では、官衙を支えた人びとの集落が見つまっているよ！



C 櫓状遺構

周囲を監視するための見張り台。あわせて3か所見つまっているよ！



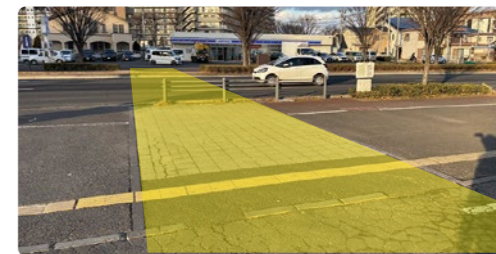
D 郡山廃寺 (II期官衙)

陸奥国で最も古いお寺の一つ！
このころから仏教が広がっていたんだね！

遺跡全体の広さは、約60ha(東京ドーム13個分)もあるよ！
昔の人はどうしてここに官衙をつくったんだろう？

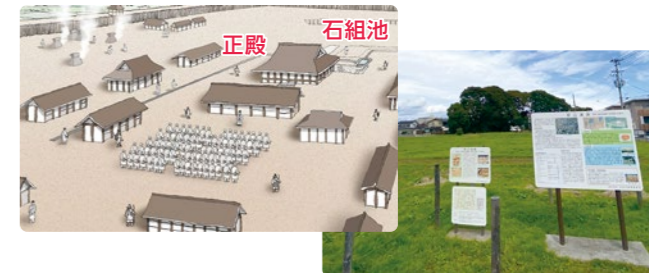
E 外溝遺構表示

歩道の異なる舗装は、外溝の幅を表現しているよ！



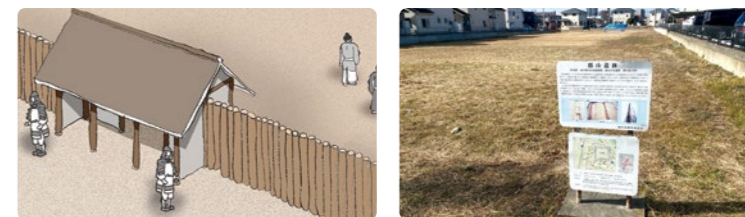
F II期官衙中枢部

役所の重要な建物などが見つまっているよ！



G 材木列・南門

官衙の入口、ここに門番が立っていたのかも…？



H 大溝の面影を残す水路

現在の水路は、昔の人が大溝を利用して水路を作ったと考えられており、大溝の面影を残しているのかもしれないね！



郡山遺跡 散策マップ解説

A I期官衙施設

- 中枢部：I期官衙区域の北寄りに、板塀などで120m×90mの大きさに区画された場所があり、塀に密着するように建物が配置されています。区画内部は広場状になっています。
- 倉庫群：中枢部のまわりには、柱が碁盤の目状に立ちならぶ建物がならんでおり、物資倉庫と考えられます。柱を据える穴の底には、建物の重さで柱が沈まないよう石が敷き詰められていました。
- 工房：小札（鎧の部品）や鍛冶炉のフイゴ（送風管）が出土しています。この建物は武器や武具の製造・修理が行われた鍛冶工房と考えられています。
- 出土品：東北地方でつくられた土器の他に、畿内産土師器が出土していることから、官衙の造営にあたって都や各地から人びとが来ていたことが伺えます。



畿内産土師器



小札

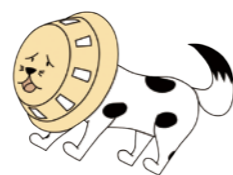
B 集落

郡山遺跡に隣接する西台畑遺跡および長町駅東遺跡からは、飛鳥～奈良時代の建物跡（竪穴住居跡）が多数、密集してみつかっています。その数は800軒以上のぼり、当時の東北地方では最大級の集落であったと考えられます。この集落跡は、東側に隣接する郡山官衙の造営にかかわった人びとが暮らした集落であると考えられています。



西台畑遺跡 住居跡

800軒…
いったい何人の人たちが
暮らしていたんだろう？



集落で使われていた器（長町駅東遺跡出土）

C 櫓状建物

II期官衙の大溝や材木列と併せて設置された監視・防御用の建物で、材木列の南西隅と西辺でみつかっています。特に南西隅の櫓状建物は太さ50cmのクリ材を使ってつくられています。官衙が軍事拠点としても機能していたことを示す重要な遺構です。



櫓の上からは遠くが
よく見えただろうね！



櫓状建物跡

キーワード
12文字の答えは…

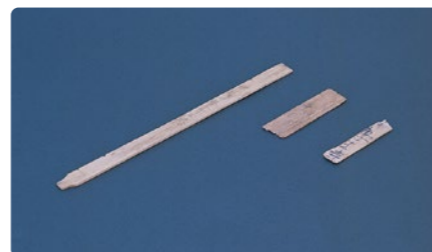
でした！

D 郡山廃寺

官衙の南には、概ね南北方向を基準としてつくられている寺の跡が発見されています。記録がなく名称が不明なので、「郡山廃寺」と呼んでいます。

寺の跡は東西120～125m、南北167mの範囲に広がり、区画内の西寄りには講堂の基壇跡、その北には僧房の掘立柱建物があります。講堂の南側には仏像を安置した金堂などの瓦葺き建物が存在したことが考えられています。区画の中央には巨石が埋もれていた伝承があり、塔の中心の礎石であった可能性があります。

郡山廃寺は、陸奥国で最初につくられた本格的な寺院で、官衙が多賀城に移った後も750年頃までは維持されていたと考えられています。



木筒



使われていた瓦



井戸跡

E II期官衙中枢部

II期官衙の中枢部では、中央より南寄りに、正殿、石組溝、石敷きの広場、石組池、楼状建物などが配置されています。このうち石組池は、地方の官衙では唯一、郡山遺跡のみで発見されており、蝦夷の服属の儀礼などに使われていたと考えられています。

石組池は
地方官衙でここだけ！



石組池



石敷きの広場

F 材木列・南門

II期官衙は、外周を「外溝」（一辺約533m四方）で囲み、その内側を少し離して「大溝」と「材木列」（一辺約428m四方）の3重に囲むことで官衙の内外を分けていました。

南辺の材木列には正面の入口となる門（南門）が設置されていました。これまでの発掘調査では門の大きさや形はわかりませんが、見つかった9つの柱跡のうち5つには、当時使われていた柱が一部残っていました。柱の太さは50cmにも及びます。昭和60年の発掘調査で見つかったクリ材の柱は、郡山中学校ピロティで展示しています。



大溝跡と材木列跡



南門跡の9つの柱跡